

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092000019
法人名	医療法人 柳川慈恵会
事業所名	グループホーム春
所在地	福岡県柳川市西浜武1085-1
自己評価作成日	平成24年2月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成24年3月12日	評価結果確定日	平成24年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念に示すように、職員と入居者はお互いを思いやり支え合い、暮らしを共にする者同士の関係を大切にしています。昼間は笑顔が見え元気な声を出していただき夜はぐっすり眠る、朝はおはようございますと顔を合わせて、ご飯と温かい味噌汁を皆で頂き今日も一日が始まります。そんな普通の毎日の暮らしがある大きな温かい家族を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ホームは自然と調和した黄色系で洋風調の造りとなっており、清潔感と安心感がある。建物内は「菜の花」と「桜」のふたつの癒しの部屋があり、年中春を感じられる空間となっている。母体医療機関や老人保健施設が隣接し、それぞれの機能を活かした連携や24時間の協力体制が図られており、家族などの安心にもつながっている。職員は「利用者が笑顔で安全に過ごしてもらおう」とを念頭に置き、利用者の個性に配慮したやさしい支援や言葉かけを行い、日々楽しい日常生活が送れるように支援している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の集団生活の中でお互いを思いやる支え合う理念を掲げ、一日2回唱和し全職員が実践している	ホーム理念をより深く理解するために一日2回唱和している。職員は笑顔や真心を持ち、理念に基づいた介護サービスが提供できるよう日々努力している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流する機会は少ないが、廃品回収の協力や運動会見学、ボランティアのピアノ演奏、保育園児の訪問交流、地域慰問団を見学する他、地域の話題を伝え入居者と地域のつきあいを継続している	地域行事の廃品回収や運動会に参加している。また地域慰問団の見学や保育園児の訪問などを受け入れており、地域との交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業者は日頃から支援している姿を見て頂いているが、もう少し地域の人に活用貢献できる場に努めたい		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回様々な報告をさせて頂くが、現場の大変さを理解し事業所として気づかされる意見が多く有り難い、又市町村や国への苦言もあり関心をもって頂いている	老人会会長、民生委員、市職員、家族代表などのメンバーで構成され、2ヶ月毎に開催されている。活動状況、研修や防災訓練、外部評価報告、事業所の課題などについて積極的に意見を出してもらい、ホームの運営に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアサービス中に問題があれば相談して速やかな解決を図っているため、今後も協力関係を築きサービス向上に努めたい	介護保険利用に関しての相談やケアサービスの問題点などを気軽に相談し、助言・情報を得るなど協力関係ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を重ね正しい理解に努めている。身体が危険にさらされる可能性が著しく高い「緊急やむを得ない場合」の慎重な判断を含めて勉強している	月1回の拘束委員会やホーム内での勉強会を定期的に行い、全職員が身体拘束のリスクを十分に理解している。また「言葉の拘束」にも注意し、利用者の自由を拘束しないよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束と同じく学習を重ねている。ホーム内ではどんな小さなことも見過ごされることがないように、管理者職員は連携を図り虐待防止につとめている		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会で制度の理解を深めている。現在他ユニットで成年後見制度申請中である	全職員が学習会やスタッフミーティング、研修会に参加している。勤務上参加できなかった場合は、資料の回覧などの工夫により理解できている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族にとって重要な説明であるので、分かり易く説明するように心掛けている		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業者サイドは積極的な姿勢を持ち、利用者や家族等と接し意見要望は大切に扱っている	家族面会や運営推進会議時に話を聞く機会を設けている。意見箱はさりげなく置かれ、意見などがあればミーティングなどで話し合い、日々のケアに活かしている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員が意見や提案を表出し易い環境整備に努めている。集約した意見提案はスピード感を持ち検討し運営に反映している	職員が働きやすい職場となるよう、管理者は日頃のコミュニケーションを心掛けている。ユニット会議の個人カンファを重視し、話しやすい雰囲気を作り、ともにケアの充実に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は平素から法人内で働く全職員の就業環境整備に努めておられる。各自の前向きな働きがひいては利用者のサービス向上に反映するとの考えである		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時はまず本人と面接されている。採用対象から排除されるようなことはない。福祉現場で働く熱意や人柄を重視している。採用後は本人が継続して頑張れるように見守り支援している	法人での採用を基本とし、介護現場で働く意欲や人柄を重視しており、性別や年齢などでは除外していない。研修参加や資格取得についてはスキルアップや自己実現につながるよう勤務を調整するなど配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権尊重については日常的に啓発し意識の向上を図っている	ホーム独自で人権尊重のための「接遇心得」を「理念」とともに重視し、職員の育成に努めている。日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会も行い、知識を高めている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のステップアップが入居者へのケアサービスの質の向上であるから、各自の力に合わせた研修の機会を確保している		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所の反映やサービスの質の向上を図るため今後も活動に関心を持ちたい		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に本人を確認して、安心されるように話をさせて頂き関係づくりに努めている		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時は不安が大きいので家族の立場に立ち、話をお聞きし安心されるように説明し、入居後も随時相談にのっている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早い段階で必要とする支援を判断している		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム理念にも示す通り支えあう関係を大切にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を念頭に置き、職員は家族と同じ立場に立って日頃から相談し合っ、本人を支えている関係である		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの人や場所との関係維持ができるように、必要時は家族も快く応じて頂いている	できるだけ地域での暮らしを継続していくために、家族と月1回ペースで外泊したり、食事に出かけたり、ホームに友人が訪ねてくるなど、関係者の協力を得ている。職員は家族や友人との面会機会が増えるよう働きかけている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士や職員との関わり合いの中でお互いを気遣う気持ちを持たれている		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は家族の不安も大きいので必要に応じて相談に努めている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位に検討する機会が多くなってきている。本人のサインを見逃さないように努めている	日常の関わりの中での会話や表情、行動により利用者の思いや意向の把握に努めている。また一人ひとりに担当を決め、より深く意向が把握できるようにしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これからの暮らしが充実するように早い段階で本人のこれまでの暮らしの把握に努めている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康管理、社会性、毎日の暮らしぶり、本人の力等の現状把握に努め介護計画に活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まずは本人と十分に向き合い現状把握している。家族や必要な関係者の意見も反映して介護計画を作成している	サービス担当者会議やカンファレンスなどを行い、利用者・家族の意向を確認しながら介護計画書を作成している。また3ヶ月に1回の評価や利用者の状態変化があればその都度介護計画書を見直している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の健康管理や状態観察、暮らしの中での気づきは看介護日誌に記録し、介護計画の見直しに活かして即実践するようにしている		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化でニーズも変化するので柔軟に対応している。かかりつけ医への受診支援、入院時の支援、事業所のできるサービス等を支援している		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	暮らしの中に地域資源を活用して楽しんでもらっている		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時にかかりつけ医を決定されている。家族で受診支援されて5人ほど専門医に受診されている。	ホーム提携医による往診や他機関の専門医に繋げるなど、利用者が安心して適切な治療が受けられるよう支援している。また家族への連絡もその都度行い、受診後の説明をするなど連携に努めている。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師看護師による訪問診療（回診）は週1回であるがおおよそ毎日連携している。心身の状態変化は昼夜を問わずかかりつけ医と連携を図り支援している		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者や家族が安心されるように十分な説明を行い、日常的に医療機関とも相談や情報交換に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢者は急速に重度化するので医師からの説明は早い段階で行われる。医師の指示のもと事業所の方針は共有し最善を尽くしてケアを実施している。	家族や病院関係者と早い段階から情報交換を行い、可能な限り安定した状態で生活が継続できるよう支援している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染予防の手順は繰り返し実践学習している。今後初期対応の訓練をさらに重ね実践力を付けていきたい		
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災津波水害時まずは外に避難する。老健へ誘導する。家族も避難する中、家族との連絡体制や地域との協力体制	消防署の指導のもと、夜間想定を含む年2回の避難訓練を実施している。隣接する病院や施設の応援が得られるよう連絡網を作成し、協力体制を整えている。	現在車椅子の方が18人中10人であることから、誘導の限界を具体的に確認し、地域住民の参加協力を得ながらの訓練実施を期待する。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人設立から継続して取り組毎日2回接遇心得を唱和し実践している。新人教育でも力を入れ意識向上を図っている。	事業所独自の「7項目の接遇心得」を毎日1項目ずつ唱和している。また日常のケアの中で一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を行っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の表出や自己決定が困難な方も多く毎日本人の表情や行動を見守り働きかけている		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先のケアになっていないか、一人ひとりの希望に沿った生活ができているかを振り返って支援している		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれについての話はみなさん喜ばれるので会話のきっかけにしている。職員の洋服の色に興味を示される		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一番の楽しみはやはり食事である。好みや味加減など聞いて参考になっている。準備や片付けが困難になっているのでお盆拭きをお願いしている	管理栄養士による栄養管理や、季節折々のメニューを提供するなど食を楽しむための工夫がされている。食事の時は職員も一緒に同じものを食べながら支援し、食後は利用者の力量に応じて、お盆拭きやテーブル拭きなどを行っている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスの良い食事を提供している。摂取量や水分量を管理して健康管理しているが、本人の習慣に応じた支援が大切である		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず実施し口腔内の清潔保持し、感染予防を行っている。訪問歯科診療も利用している		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理は小まめにチェックして、夜間はおむつ使用も多くなったが、日中はトイレ誘導する	毎日排泄チェック表に記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握し誘導している。また、さりげなく声かけや見守りをし、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつに食材に工夫されている。日課活動で運動の働きかけを行い、排便管理で便秘傾向の方は内服コントロールしている		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回気温が上昇する午後から入浴している。午前中の中の入浴支援も実施、シャワー浴、清拭等個々の状態に合わせて支援している	週3回の入浴が基本であるが、本人の希望や体調に合わせた入浴支援を行っている。入浴拒否がある利用者に対しては無理強いせず、時間を置いたり日を変えるなど個々に応じた支援を行っている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は短時間の休息を取り入れ、生活リズムを整え安眠できるように支援しているが、中途覚醒や不眠の訴えが続く場合は医師へ相談している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は毎回担当者が行っている。状態によっては臨時薬があるので、職員はきちんと理解確認している		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の楽しみごとは日頃から把握して対応し、満足感を得て笑顔で過ごせるように支援している		
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて外出の機会を作り近隣のドライブ、散歩等行っている。家族の協力があり本人の外出、外泊希望を支援されている	近隣へのドライブや法人内の畑・お地藏さん参りなど、定期的に出かけている。また自宅への外泊やレストランでの食事など、家族の協力を得て普段行けない場所に外出できるように支援している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	このご飯はいくらですか、タバコを買いますなど発言があるが、実際お金を使う事や自分で管理するのは困難で時々被害妄想がある。現在3人から預かり家族は確認をされている		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望や、手紙の投函希望があり速やかに対応し安心される。プライバシー保護につとめている		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔保持と安全面の整備に努め、室内空調に小まめに配慮し、カーテンや障子等も利用している。季節に合わせ飾り物をして話題を持っている。トイレの臭気や不快な音にはびっくりされるので注意している	食堂兼居間は日当たりが良く、明るく清潔感のあるスペースとなっている。居間の一角には和室があり、座り心地の良い掘りごたつがある。壁には手作りのカレンダーや行事の時の思い出の写りが飾られ、ゆっくりくつろげる空間となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	集団生活の中で本人の思いは大切に居場所を確保している。一日の中で一人で居たい時間場所、皆で交流する時間場所を見極めながら支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れていることを考慮して毛布やタオルケット、座布団などは家族が持参されている。本人が混乱しない範囲を工夫している	居室には筆筒やテーブルなどの使い慣れた家具や、座布団、毛布など愛用の品が持ち込まれている。床面は畳が敷かれ、部屋の入口には木製の表札がかけられるなど生活感のあるプライバシー空間となっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間覚醒があり安全面を第一に考慮してシンプルに整備している。本人の力に合わせての環境づくりである		